

「1755年リスボン地震」と「荒川氾濫」

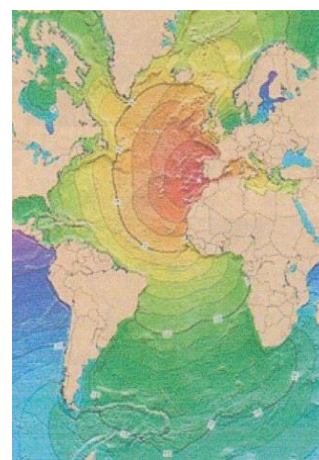
中瀬勝義（江東5区マイナス地域防災を考える会）

2024年は元旦から能登半島地震の激震が襲い、9月には同じ能登半島に大豪雨が襲来し洪水による大被害が発生した。その前の8月には宮崎県に震度7の激震が襲い、南海トラフ地震情報が発せられ、改めて災害大国日本を自覚させられ、防災の必要性を痛感した。ほぼ270年前のリスボン地震では、首都リスボンが廃墟化し、当時の世界覇権国ポルトガルがその後、覇権国に戻っていない。その地震と首都直下地震・荒川氾濫は共通性があると感じ、改めて荒川氾濫の防災を強く考えたい。

1. 1755年リスボン地震

1755年11月1日にリスボン大地震が発生した。当時リスボンは27.5万の人口で、最大9万人が亡くなった。地震のマグニチュードは8.5~9と推定されている。この震災は近代の扉を開いたとされ、国家が直後の対応と復興に責任を持った最初の近代災害と言われ、ヨーロッパ社会に大きな影響を与え、新しい科学や技術の数々を誕生させた。

津波と火災により、85%の建物が廃墟と化し、震災によりポルトガル経済は打撃を受け、ポルトガルでは国内の政治的緊張が高まり、海外植民地拡大の勢いが削がれ、当時の世界覇権国ポルトガルはその後立ち直ることができなかった。



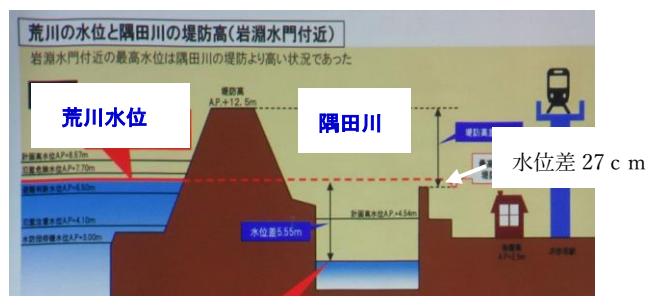
2. 東京一極集中、関東大震災、工業化、マイナス地域が発生

東京圏の人口は、1950年には1300万人であったが、2005年には3400万人まで増加した。その後、日本の総人口は減少に転じ、地方は少子高齢化が進んでいるが、東京は人口増加が続き、東京一極集中が続いている。100年前の関東大地震は10万人が亡くなり、火災で9割、家屋倒壊で1割だった。その後、江東5区は工業化が進み、工業用水に地下水を使い続けたため、地盤が沈下した。江東南部では3~5mも沈下し、ゼロメートル・マイナス地域となり、江東5区災害の最大課題となった。

3. 首都直下地震・台風大型化・荒川氾濫

首都直下地震は、今後30年で70%の確率と予測され、首都直下地震が発生すると、荒川氾濫・停電・断水・交通マヒ・通信障害が予想される。

また、2019年の台風19号では荒川が決壊寸前で、集中豪雨のため荒川の水位が高くなり、隅田川の堤防の天端よりも高くなったが、幸い荒川から隅田川への岩淵水門を閉じて、東京下町の洪水は免れ、助かった。



12時間前に岩淵水門を閉鎖（荒川水位 1.62m時）

江東5区が参加する江東5区広域避難推進協議会は広域避難を推進するため、ハザードマップを作成し、「ここにはダメです」「浸水のおそれがない**その他の地域へ**」と明示しているが、地域の**避難所**や**避難ルート**は示されていない。避難は、自己責任で行動しなければならない。江東5区マイナス地域には250万人が住み、温暖化による大型台風や首都直下地震による荒川決壊・荒川氾濫が予想され、



1階や地下階にあるスーパーとコンビニに依存している住民の**食生活崩壊**が懸念される。

4. 荒川下流河川事務所『荒川氾濫』YouTube

江東区でも水防訓練が行われているが、マイナス地域防災訓練には課題が多く、荒川氾濫を自分事としてイメージするには荒川下流河川事務所『荒川氾濫』が貴重だ。北区で荒川が堤防決壊すると、洪水は1時間後に町屋駅に達し、洪水は地下鉄内に侵入し、地下鉄の中を流れ、12時間後には大手町に達し、霞が関やオフィス街が機能不全になると予想している。



5. 水害避難支援システム—避難場所づくり

3・11東日本大震災では、巨大津波が大きな防潮堤も超えた。高い防潮堤で津波から人々の命を守ることができるとされてきたが、ハードだけでは難しくソフトな**避難支援システム**が必要となってきた。ARを活用してスマホに示す「**水害避難支援システム**」研究を中央大学有川研究室が進めている。浸水予測し、避難場所への誘導ルートを選定し、スマホに示すことができる。



江東5区のような平地では難しいと思われるが、マンションや集合住宅、オフィスビルの多い江東5区でもそれらを利用すれば不可能ではない。住民と企業、行政の連携が必要だ。

一人ひとりが防災を自分事として考え、個人避難計画を作ることが必要となっている。

6. 地方創生・防災省に期待

1755年リスボン大地震で首都リスボンが崩壊し、当時の世界覇権国ポルトガルはその後覇権国には立直れなかった。首都圏のマイナス地域も水害で、同様なことが予測される。一極集中し過ぎた首都東京を徐々に人口減少させ、過疎化が進んだ地方に移住し、都市を分散化することで、南海トラフ地震や首都直下地震が襲来しても、日本が崩壊してしまうようなことから免れることが可能となる。現在、耕作放棄地は埼玉県面積を超えている。日本は広大な海（海の面積は世界第6位）に囲まれた自然豊かな国であり、狭い国ではない。外国資源に依存した工業中心主義から農林水産業・製造業・地域の土建業をベースにした循環型日本、**海洋観光の国**を夢見たい。**地方創生**と**防災省**創設を柱と考えている石破首相に期待したい。「資源のない国から 自然豊かな国へ」

「ゆたかで楽しい海洋観光の国へ、ようこそ！」